

10. 長崎南北幹線道路に支障をきたす既存スポーツ施設の再配置の考え方

(1) 長崎市公共施設の適正配置基準による分類

競技大会の開催レベル（県内外との交流人口の創出度）

← 高

		利用形態			
		大規模大会利用施設	市内大会等利用施設	競技練習等利用施設	レクリエーション等利用施設
高 幅広い多くの市民が利用可能（市民へのサービス度） サービスを提供する範囲（サービス圏域）	全市施設 ・市域全体の市民を対象 ・都心部及び都心周辺部に配置する ・困難な場合は、機能確保を優先し、施設までの移動の利便性を考慮した場所に配置する	・全国、九州、県大会等の 大規模な大会に利用 ・公式大会開催に必要な競技環境、観客席、駐車場を整備	・大規模大会利用施設の補助会場や練習会場として、また、 市内大会や小規模大会の開催に利用 ・市内大会等開催に必要な競技環境等を整備	・主に 競技練習や健康増進のための運動に利用 するための施設 ・競技練習のための競技環境を整備している施設	・運動会やイベント開催など レクリエーション等目的 で利用している施設 ・レクリエーション等を開催できるスペースがある施設
	複数地区施設 ・公共交通を利用してアクセス可能な 複数地区の市民 を対象 ・各地区からの 交通の便が良い 場所に配置する	○かきどまり陸上競技場 ○かきどまり庭球場 ○市民体育館 ●市民総合プール 第1位グループ	●市営庭球場 ○かきどまり野球場 ○市営ラグビー・サッカー場 ○かきどまり運動広場 ●市営ソフトボール場 ●市営弓道場 ○市民アーチェリー場 ○諏訪体育館 第2位グループ	●市営陸上競技場 第3位グループ	●市営庭球場ほか（10施設） ○市民体育館ほか（7施設） ●市民総合プールほか（3施設） ※市営庭球場と市民総合プールは全市施設と重複
	地区施設 ・身近な場所で 地区の市民 を対象 ・普段の生活に必要なサービスを提供することができる場所に配置する				○グラウンド（26施設） ○高島ふれあい多目的運動公園運動場・庭球場 ○小ヶ倉プール、網場プール

※赤文字の施設：長崎南北幹線道路に支障をきたす既存スポーツ施設

(2) 長崎南北幹線道路に支障をきたす既存スポーツ施設の再配置の考え方

適正配置基準（案）		再配置の考え方
施設	配置の考え方※1	
第1位グループ	市民総合プール（屋内）	<p>大会開催のため観客席を備えた日本水泳連盟公認の50m及び25mの温水プールが必要であるため、現在の施設を継続して配置します。</p> <p>●物理的制約（必要とする面積）が大きく、かつ、従前地と同程度の公共交通によるアクセス性の確保が必要な施設であるため、移転先は限定的。</p> <p>●再配置先の候補地として、以下の条件を踏まえ、平和公園（陸上競技場跡地）と中部下水処理場跡地を選定し比較検討した結果、建築制限があるものの、土地の性状を含め、利用者の利便性や施工性、経済性などの面で優れる平和公園（陸上競技場跡地）が適地である（「別紙」参照）。</p> <p>－再配置先の選定条件－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的条件：現在地と同程度以上の敷地面積を有し、かつ、公共用地であること ・立地的条件：現在地と同程度の公共交通機関によるアクセス性が確保できること
第2位グループ	市営庭球場	<p>県内唯一の屋根付庭球場で、市内大会会場として、また、大規模大会の雨天時の会場としても利用されているため、現在の施設を継続して配置します。</p> <p>●道路計画に支障をきたさない大部分の施設（7面中6面程度）は現位置に存置。</p> <p>●支障する施設（1面程度）は、効率的な大会運営等の面から存置施設と一体的な機能確保が必要。</p> <p>●物理的な制約（必要とする面積）が小さいため、現実的に配置可能な存置施設の隣接地（ソフトボール場跡地）へ配置する。</p>
	市営弓道場	<p>市内大会が開催できる唯一の弓道場であり、また、競技練習会場としても利用されているため、現在の施設を継続して配置します。</p> <p>●利用実態等を踏まえ、再配置先として、公共交通によるアクセス性など従前地と利便性が変わらない場所への配置が望ましい。</p> <p>●物理的な制約（必要とする面積）が小さいため、現実的に配置可能な現施設の隣接地（ソフトボール場跡地）へ配置する。</p>
	市営ソフトボール場	<p>市民早朝、ナイターソフトの会場として利用されているため、現在の施設を継続して配置します。</p> <p>●現位置での機能回復は物理的に難しい。</p> <p>●平和公園内の別地（陸上競技場跡地に市民総合プールを再配置した後の余剰地）での機能回復は、物理的に可能と考えられるが、現状の利用者層から公共交通によるアクセス性確保の必要性は他の施設に比べ低い。</p> <p>●同余剰地は、より市民に開かれ、平和公園の付加価値を高める機能の導入を優先すべきであり、平和公園内への再配置の優先度は低い。</p>
第3位グループ	市営陸上競技場 ・400mトラック ・600m走路 ・フィールド（芝生広場）	<p>1周400mトラック、1周500mの走路、1周600mの走路があり、学生の陸上競技の練習だけでなく、市民の日常の健康増進のための練習場として幅広く利用されているため、現在の施設を継続して配置します。</p> <p>●陸上競技場跡地を市民総合プールの再配置先とするため、400mトラックを現在地に配置することは物理的に難しいが、600m走路や芝生広場は、形状や面積が変わるものの、一定従前地に確保することは物理的には可能。</p> <p>●これまでの経緯や利用実態等を踏まえるとともに、中部下水処理場跡地の活用も含めた都心部におけるまちづくりの考え方との整合を図りながら、今後のあり方を整理していく。</p>

※1：長崎市公共施設適正配置基準（案）の記載をそのまま転記

(3) 再検討部会の設置

ア 背景

令和4年11月市議会で長崎市平和公園スポーツ施設の再配置に関し慎重丁寧な調査検討を求める請願がなされるなど、幅広い視点から調査検討を行うことが求められている

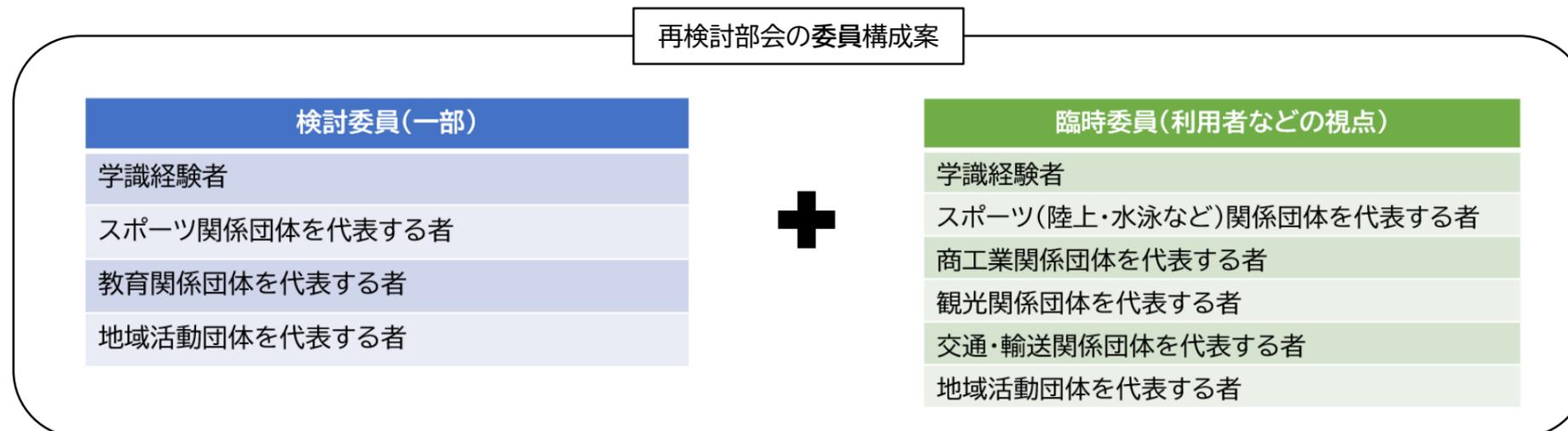
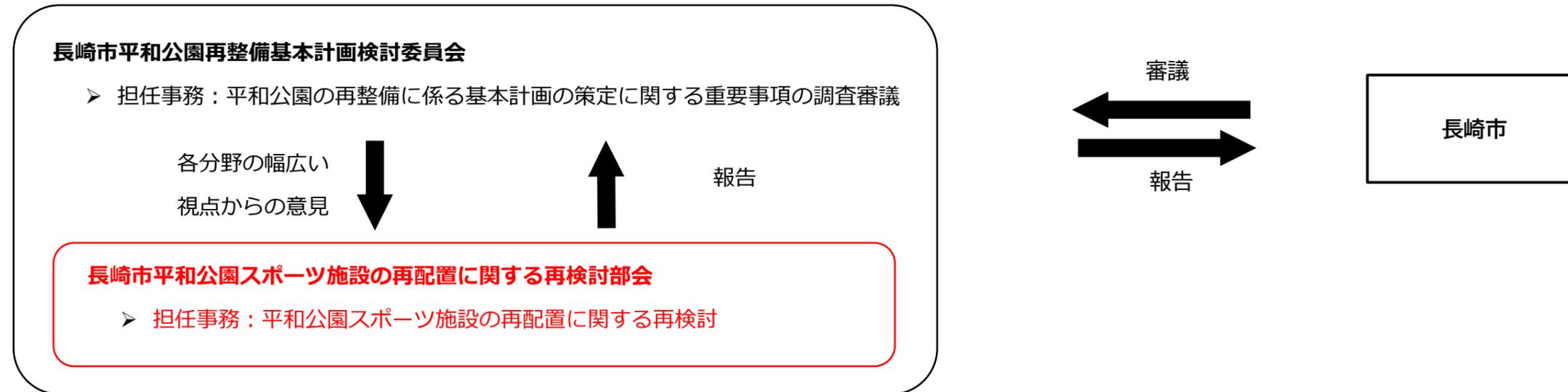
幅広い関係者の参画のもと透明性の高い議論が必要



平和公園スポーツ施設の再配置に関する再検討部会を設置

※ 議論の透明性を高めるため、インターネットでライブ配信

イ 検討体制



(4) 平和公園スポーツ施設の再配置に関する再検討部会の委員構成

検討委員（一部）+臨時委員（利用者などの視点）

検討委員会 委員

	所属	職名	氏名
	長崎県立大学地域創造学部公共政策学科	教授	西岡 誠治
学識経験者	長崎大学水産・環境科学総合研究科	教授	渡辺 貴史
	九州大学芸術工学部環境設計学科	准教授	高取 千佳
関係行政機関の職員のうち、市長が定める職	長崎県土木部	参事監	椎名 大介
スポーツ関係団体を代表する者	(公財)長崎市スポーツ協会	理事長	渡辺 雄児
平和関係団体を代表する者	(公財)長崎平和推進協会	事務局長	中川 正仁
商工業関係団体を代表する者	長崎商工会議所 都市整備委員会	副委員長	谷川 喜一
観光関係団体を代表する者	(一社)長崎国際観光コンベンション協会	常務理事	股張 一男
環境関係団体を代表する者	(特非)環境カウンセリング協会長崎	会員	佐藤 恵
教育関係団体を代表する者	長崎市PTA連合会	顧問	松本 光生
障害者団体を代表する者	(一社)長崎市心身障害者団体連合会	事務局長	川瀬 朋章
	平和公園地域まちづくり協議会	会長	深堀 義昭
	山里地区連合自治会	会長	久米 直
地域活動団体を代表する者	城山校区連合自治会	会長	古賀 信恕
	斜面地・空き家活用団体つくる	代表	岩本 諭

臨時委員

	所属	職名	氏名
学識経験者	長崎大学総合生産科学域	教授	片山 健介
スポーツ関係団体を代表する者	長崎市陸上競技協会	理事	山川 貴広
	長崎市水泳連盟	理事長	荒木 康正
	(特非)長崎游泳協会	理事長	田中 直英
	長崎市レクリエーション協議会	会長	智多 正信
商工業関係団体を代表する者	長崎商工会議所	常議員	川添 暢也
観光関係団体を代表する者	(一社)長崎国際観光コンベンション協会	会長	村木 昭一郎
交通・輸送関係団体を代表する者	(公社)長崎県トラック協会長崎支部	支部長	塚本 敏
地域活動団体を代表する者	長崎市営松山平和運動公園を守る会	事務局長	井上 秀明

再検討部会 (13人)

計9名

(5) 再検討部会の経過

第1回再検討部会

日時・場所	令和5年9月29日(金) 10:00~12:00 5階1・2委員会室
概要	<報告>長崎南北幹線道路の概要とルート選定の経緯について <議事>スポーツ施設の再配置に関する委員の意見、委員による意見交換(スポーツ施設の再配置に関する要望、考え方、留意すべき点など)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 長崎南北幹線道路の計画ルートを前提に、スポーツ施設の再配置に特化した議論を行っていくことを確認 ● 次回は、第1回再検討部会で出された意見を踏まえ、スポーツ施設の再配置検討において留意すべき点や観点について意見交換する

第2回再検討部会

日時・場所	令和5年11月2日(木) 18:30~20:30 7階大会議室
概要	<議事>スポーツ施設の再配置検討において留意すべき点や観点に関する意見交換
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ施設の再配置において留意すべき点や今後の検討の進め方、抽出や評価の観点について確認 ● 次回は、スポーツ施設の候補地の抽出を行い、再配置先のパターンについて議論する

第3回再検討部会

日時・場所	令和5年12月21日(木) 15:00~17:00 17階中会議室
概要	<議事>スポーツ施設(市民総合プール)の再配置パターンに関する意見交換
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 再配置先の抽出条件から、中部下水処理場跡地と平和公園(陸上競技場)をプールの再配置先の候補地として抽出 ● 次回は、候補地の整備費用(概算事業費)を算出し、経済性などの比較検討を行い、プールの再配置先を評価する

第4回再検討部会

日時・場所	令和6年2月7日(水) 18:30~20:30 7階大会議室
概要	<議事>スポーツ施設(市民総合プール)の再配置先の評価に関する意見交換
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民総合プールの候補地について、機能性やアクセス性、経済性などの観点から評価を行い、意見交換を行った ● 次回は、市民総合プールだけでなく、陸上練習場の候補地も合わせて評価を行い、意見交換を行う

第5回再検討部会

日時・場所	令和6年3月28日(木) 10:00~12:00 5階1・2委員会室
概要	<議事>スポーツ施設(市民総合プール・陸上練習場)の再配置先の評価に関する意見交換
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● パターン1「中部下水処理場にプール、陸上練習場を存続する案」、パターン3-2「陸上練習場にプール、現在のプールの場所に300mトラックを再配置する案」、パターン4「陸上練習場にプール、中部下水処理場に400mトラックを再配置する案」の3案が適当となった。 ● 次回は、検討委員会に再検討部会の委員も加わった中で、再検討部会の内容を報告し、スポーツ施設の再配置について意見交換を行う。

第6回再検討部会(検討委員会との合同会議)

日時・場所	令和6年5月22日(水) 16:00~18:00 5階1・2委員会室
概要	<議事>スポーツ施設(市民総合プール・陸上練習場)の再配置先の評価に関する意見交換 (再検討部会の結果を報告、関係人2人から「都市計画マスタープラン等の観点からの見解」と「経済性の試算」の意見を聞いて議論)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● パターン1とパターン4に意見が集中し、絞られた(パターン4を支持し肯定する意見が多くあった) ● 検討委員会から中間報告書(長崎市平和公園スポーツ施設の再配置について)を提出することが決定

(6) 第6回再検討部会

ア スポーツ施設（市民総合プール・陸上練習場）の再配置先の評価の方法

- 第5回再検討部会では、第4回再検討部会での議論を踏まえ、市民総合プールと陸上練習場の再配置先について議論していただく。
- 陸上練習場の候補地は、敷地面積や形状、土地利用などの敷地条件と公共交通機関のアクセス性の観点から抽出した。

イ 陸上練習場の候補地の抽出

陸上練習場候補地の抽出条件（全て満足することが必要）

再配置先の抽出の観点		抽出条件
敷地条件	敷地面積・形状	<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 <ul style="list-style-type: none"> 0.7ha[※]以上の敷地面積であること。 ※200mトラック及び100m走路、4レーンが配置可能な敷地面積（約0.7ha）として想定 ※400mトラックの場合は、1.6ha程度 形状 <ul style="list-style-type: none"> 200mトラック及び100m走路、4レーンを整備できる形状（長辺：124m以上、短辺：55m以上） ※トラックの規模に関し、これまでの再検討部会で多様なご意見があったことから、再配置先の抽出の段階では、公認陸上競技場の基準内で、最も必要面積が少ない200mトラックが配置可能な敷地であることを条件としている。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に利用可能な敷地であること。
公共交通機関のアクセス性		<ul style="list-style-type: none"> 電停から概ね半径800m[※]の範囲にあること。 ※第2回再検討部会では「現状と概ね同程度の公共交通のアクセス性を有している場所である」としていたが、第2回再検討部会での意見を受けて、範囲を拡大した。800m（徒歩約10分）という値は「長崎市地域公共交通計画」における鉄道駅の徒歩圏の定義を参照した。

再配置先のパターン

	市民総合プール	陸上練習場
パターン1	中部下水処理場	現地存続
パターン2	その他候補地	現地存続
パターン3	陸上競技場	平和公園内へ移転
パターン4	陸上競技場	中部下水処理場（400mトラック）
パターン5	陸上競技場	機能統合（柿泊）

パターン3の陸上練習場の候補地

	陸上練習場
パターン3-1	新市民総合プールの外周（400mトラック）
パターン3-2	長崎南北幹線道路の高架下（300mトラック）
パターン3-3	新市民総合プールに隣接（200mトラック）

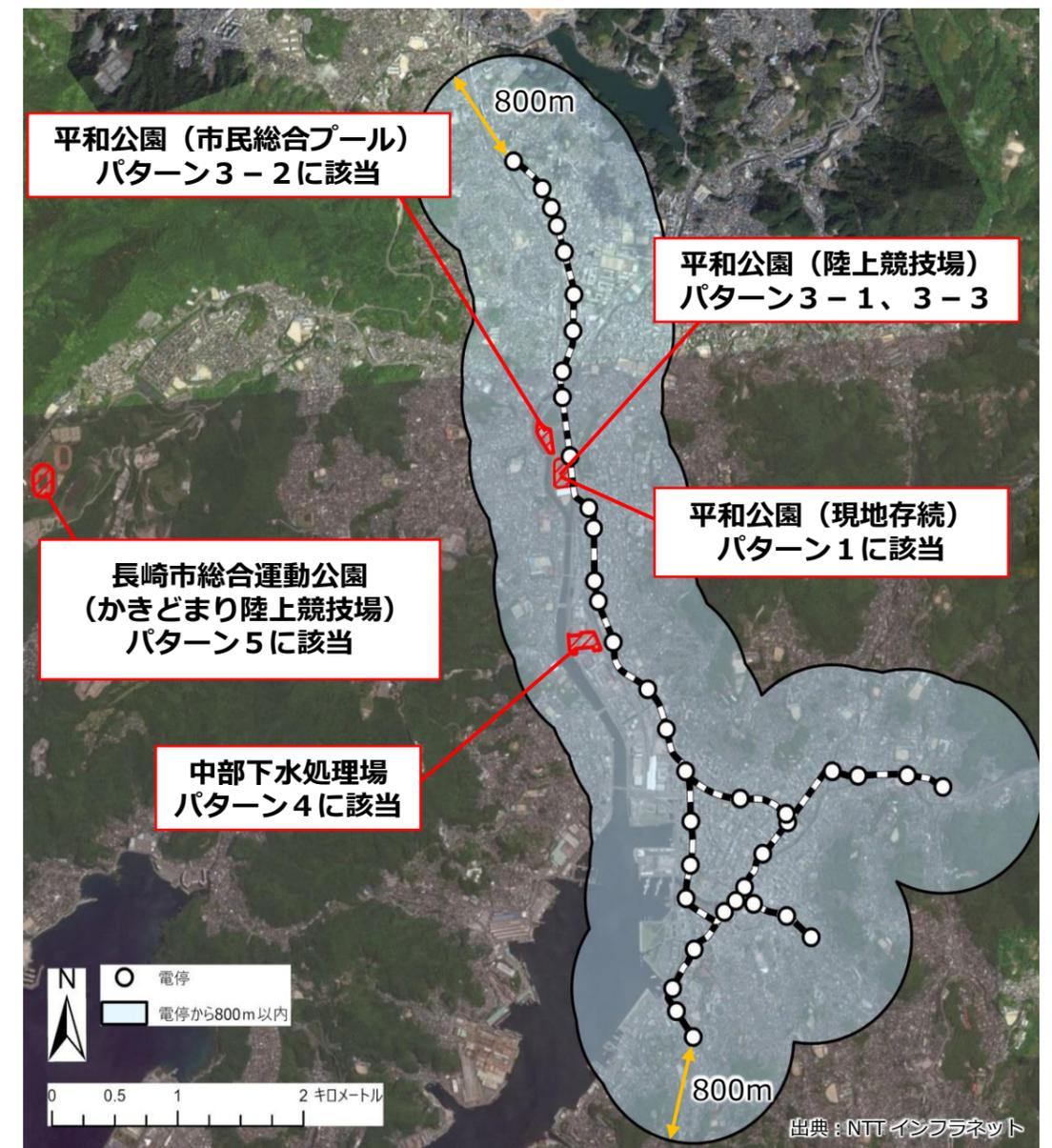


図-37 候補地の位置

※パターン2は、第3回再検討部会において検討の対象外にすることが決定したため、削除

ウ 市民総合プール及び陸上練習場の再配置先の評価の観点

- 再配置パターンの評価については、第2回再検討部会で整理した評価の観点に基づき、個別施設の評価と再配置パターン全体の評価を行う。
- 個別施設の評価については、これまでの再検討部会でのご意見を基に、機能性やアクセス性と、施設整備によって生じる経済性の観点から評価項目を設定した。
- 再配置パターン全体の評価については、再配置先の候補地の場所性や将来性、連携性、安心・安全性の観点から評価項目を設定した。

市民総合プール及び陸上練習場の再配置先の評価の考え方

		市民総合プール		陸上練習場	
評価の観点		評価の観点の考え方	評価方法	評価の観点の考え方	評価方法
個別施設の評価	機能性	<ul style="list-style-type: none"> 現状と概ね同程度の利用・スポーツ環境の確保が可能な場所 	<ul style="list-style-type: none"> 面積の大きさを評価 	<ul style="list-style-type: none"> 現状と概ね同程度の利用・スポーツ環境の確保が可能な場所である 	<ul style="list-style-type: none"> 配置できるトラックの大きさ（200mトラック、250mトラック、300mトラック、400mトラック）や機能（100m走路や幅跳び等）を評価
	公共交通機関、自動車、大型バス等のアクセス性	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関からのアクセスが容易な場所 駐車場がある又は設置可能 交通混雑が発生する可能性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 電停やバス停、JR駅から候補地までの距離や経路上の道路横断箇所数、踏切の数、便数を評価 駐車場の利用や設置の可能性を評価 周辺の幹線道路の交通量を評価 その他に交通混雑での懸念事項を評価 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関からのアクセスが容易な場所である 	<ul style="list-style-type: none"> 電停やバス停、JR駅から候補地までの距離や経路上の道路横断箇所数、踏切の数、便数を評価
	経済性	<ul style="list-style-type: none"> 整備費用 	<ul style="list-style-type: none"> 市民総合プールの基礎の整備費用、地下構造物の対策費用、その他整備費用を評価 ※本体建設費は、どちらの候補地に配置しても差は生じないため、整備費用には含めない 	<ul style="list-style-type: none"> 整備費用 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上練習場（練習用トラック）の整備費用を評価
		<ul style="list-style-type: none"> 維持管理費用 	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理費用のうち、差異が生じる費用を評価 		
再配置パターン全体の評価	場所性	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園（西地区）の基本方針と整合が図られている 	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園（西地区）の基本方針と整合が図られているかどうかを評価 	同左	
	将来性	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりと連携が可能で継続的に賑わいの創出が見込める配置となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 「長崎市都市計画マスタープラン（平成28年改訂）」や「長崎都心まちづくり構想（策定中）」の方向性との整合性を評価 【長崎市都市計画マスタープラン】 <ul style="list-style-type: none"> 中部下水処理場の方針：「地域経済の活性化を図るため、跡地活用を検討する」 平和公園（西地区）の方針：「交流施設の確保」 【長崎都心まちづくり構想】 <ul style="list-style-type: none"> 川辺のエリアの整備の方向性： <ul style="list-style-type: none"> (a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及 (b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備 (c) 浦上川右岸など、土地利用の転換や高度利用により、多様で柔軟な機能を確保 ※ 中部下水処理場と平和公園（西地区）は「川辺のエリア」に含まれている 	同左	
	連携性	<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設との相乗効果が発揮できる配置となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設との連携や相互利用等による相乗効果の可能性を評価 	同左	
	安心・安全性	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における防災・減災機能を確保できる配置となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスク（洪水、津波など）の区域の有無などを評価 	同左	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 特徴や課題を評価 		同左	

パターン1（市民総合プールを中部下水処理場に再配置する案）

陸上練習場は現地存続し、市民総合プールを中部下水処理場に再配置する案

施設（配置先）		市民総合プール（中部下水処理場）					陸上練習場（現地存続）					
イメージ図・写真		 <p>プール(屋内・屋外)</p>										
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.7ha > 1.4ha 					<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 400mトラック、100m走路、幅跳び等、外周園路 					
個別施設の評価	大型公共交通等のアクセス性	公共交通機関のアクセス	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）
		①電停	①銭座町	約230m	3か所	0か所	12～17本	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12～17本
		②バス停	②銭座町	約220m	3か所	0か所	32～71本	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23～41本
		③JR	③長崎駅	約1,100m	7か所	0か所	3～7本	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3～7本
		④JR	④浦上駅	約550m	4か所	0か所	2～6本	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2～6本
	駐車場※1	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場がないため、約1.3haの余剰空間に駐車場の整備が必要 ※県外や市外からの競泳大会等の利用者は、貸切バスで来ることが多い 					-					
	交通混雑※1	<ul style="list-style-type: none"> 国道206号の交通量（R3八千代町）：49,819台/日 長崎スタジアムシティと隣接するため、試合やイベント、大会等が重なった際の交通混雑が懸念される 					-					
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用：約15億円 計：約27億円 地下構造物の対策費用 ：約10億円 駐車場の整備費用 ：約 2億円					-					
	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 					-					
場所性	平和公園（西地区）の基本方針※2	-					<ul style="list-style-type: none"> 平和公園（西地区）の基本方針「平和を発信するスポーツ環境の創出」と整合が図られている 					
再配置パターン全体の評価	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	【都市計画マスタープラン】 ・中部下水処理場は「地域経済の活性化を図るため、跡地活用を検討する」と位置付けられており、プールで大会等が開催されることで、副次的に地域経済の活性化に貢献できる 【都心まちづくり構想】 ・川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 ・都心部の貴重な土地であるため、都心部の課題解決に向けた土地利用（大規模災害時や臨時的な大型イベント時に円滑な都市活動を維持するためのオープンスペースなど）が望まれているが、市民総合プールが土地のほとんどを占める					【都市計画マスタープラン】 ・平和公園（西地区）は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 ・川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 ・県内外から選手が訪れるような大会が開催される市民総合プールが平和公園から移転するが、陸上練習場は平和公園内に立地している				
			<ul style="list-style-type: none"> 長崎スタジアムシティ（スタジアムやアリーナ等）との連携により相乗効果が期待できる 市民総合プールが近くにあることで、大型商業施設や長崎スタジアムシティの付加価値が高まる 					<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる 				
			<ul style="list-style-type: none"> 災害時における防災・減災機能 					<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 				
			その他									

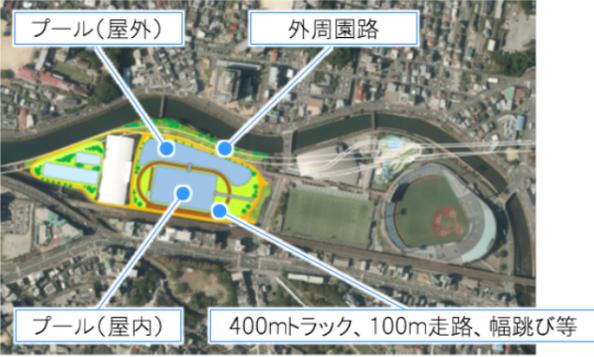
※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象
 ※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象

パターン1 (市民総合プールのイメージ図)



パターン3-1 (平和公園内に市民総合プールと陸上練習場の両方を再配置する案)

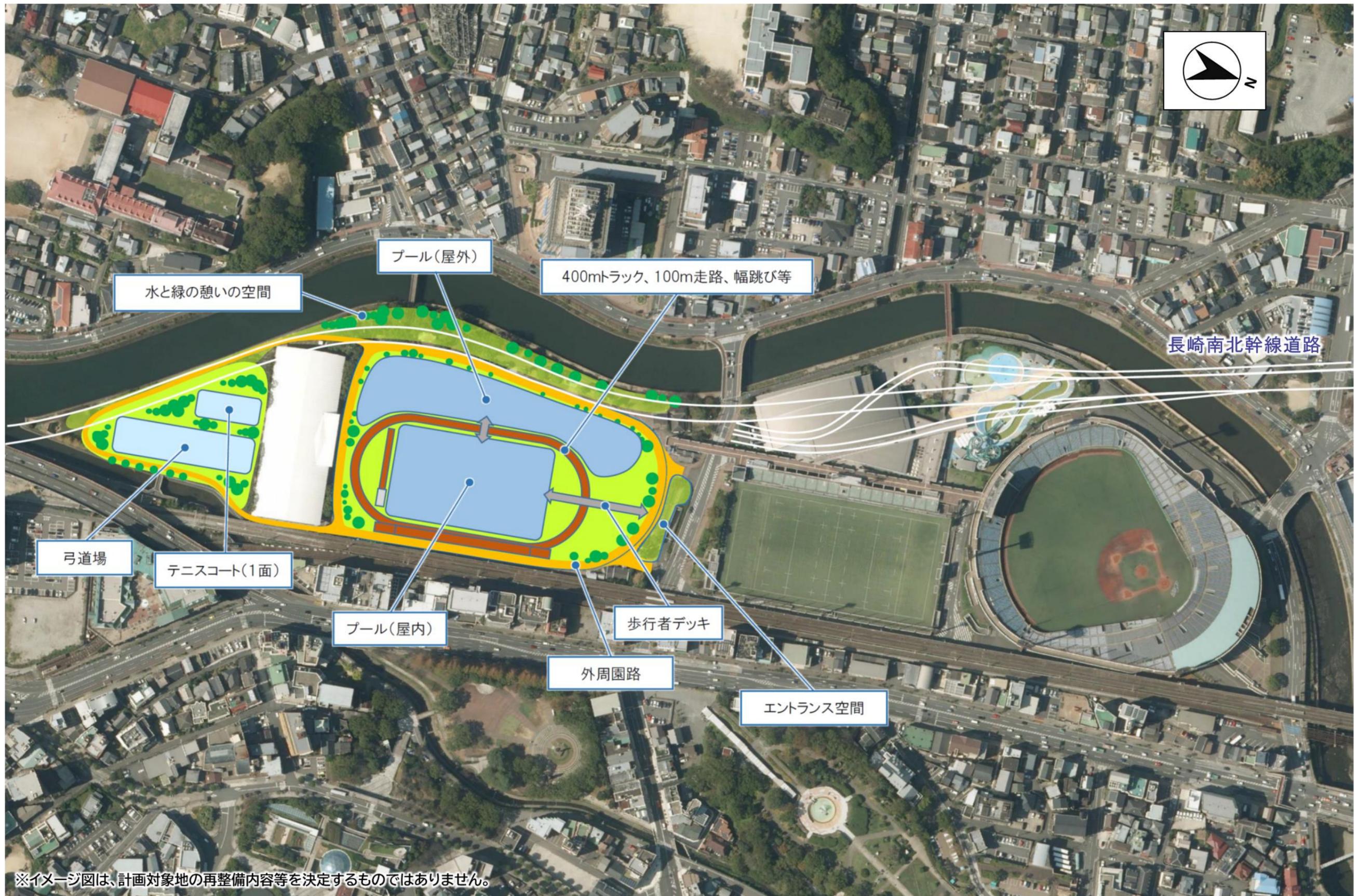
屋内プールと屋外プールを分けて建てることで、平和公園西地区に集積する案

施設 (配置先)		市民総合プール (陸上競技場)					陸上練習場 (陸上競技場)					
イメージ図							同左					
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.4ha > 1.4ha 					<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 400mトラック (4レーン)、100m走路、幅跳び等、外周囲路 					
個別施設の評価	大型公共交通、バス等のアクセス、自動車、駐車のアクセス性	公共交通機関のアクセス	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間あたり)	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間あたり)
		①電停	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本
		②バス停	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本
		③JR	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3~7本	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3~7本
④JR	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2~6本	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2~6本		
駐車場※1		<ul style="list-style-type: none"> 現状の松山町駐車場を継続して利用することが可能 					-					
交通混雑※1		<ul style="list-style-type: none"> 国道206号の交通量 (R3松山町) : 47,880台/日 スポーツ施設の再配置に伴う交通負荷は大きく変わらない 					-					
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用: 約2億円					陸上練習場 (400mトラック等) の整備費用: 約1.8億円					
	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 ただし、現市民総合プールでは地下水を利用しており、現ポンプ設備から送水可能 					-					
再配置パターン全体の評価	場所性	平和公園 (西地区) の基本方針※2	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園 (西地区) の基本方針「平和を発信するスポーツ環境の創出」と整合が図られている 県内外から選手が訪れる市民総合プールが平和を発信するスポーツ施設の拠点となることが期待される 					同左				
	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 平和公園 (西地区) は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 大規模スポーツ施設の集積により、スポーツの大会やイベントの開催等を通して、地域経済の活性化やスポーツへの関心の向上が期待される 					同左				
	連携性	周辺施設との相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる 					同左				
	安心・安全性	災害時における防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 緊急避難場所となっている広場空間が減少する 					同左				
その他		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多くを占める外周囲路は確保できる 屋内プールへのアクセス通路や屋内プールと屋外プールの連絡通路などが必要になる 平和公園の開放的な空間が縮小する 工事の際に遺骨が発見された際は、必要な措置が必要となる 					<ul style="list-style-type: none"> 400mトラックの内側に建物が建つことで死角が多くなる 400mトラックのインフィールドが確保できない 					

※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象

※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象

パターン3-1 (市民総合プール・陸上練習場のイメージ図)



パターン3-2 (平和公園内に市民総合プールと陸上練習場の両方を再配置する案)

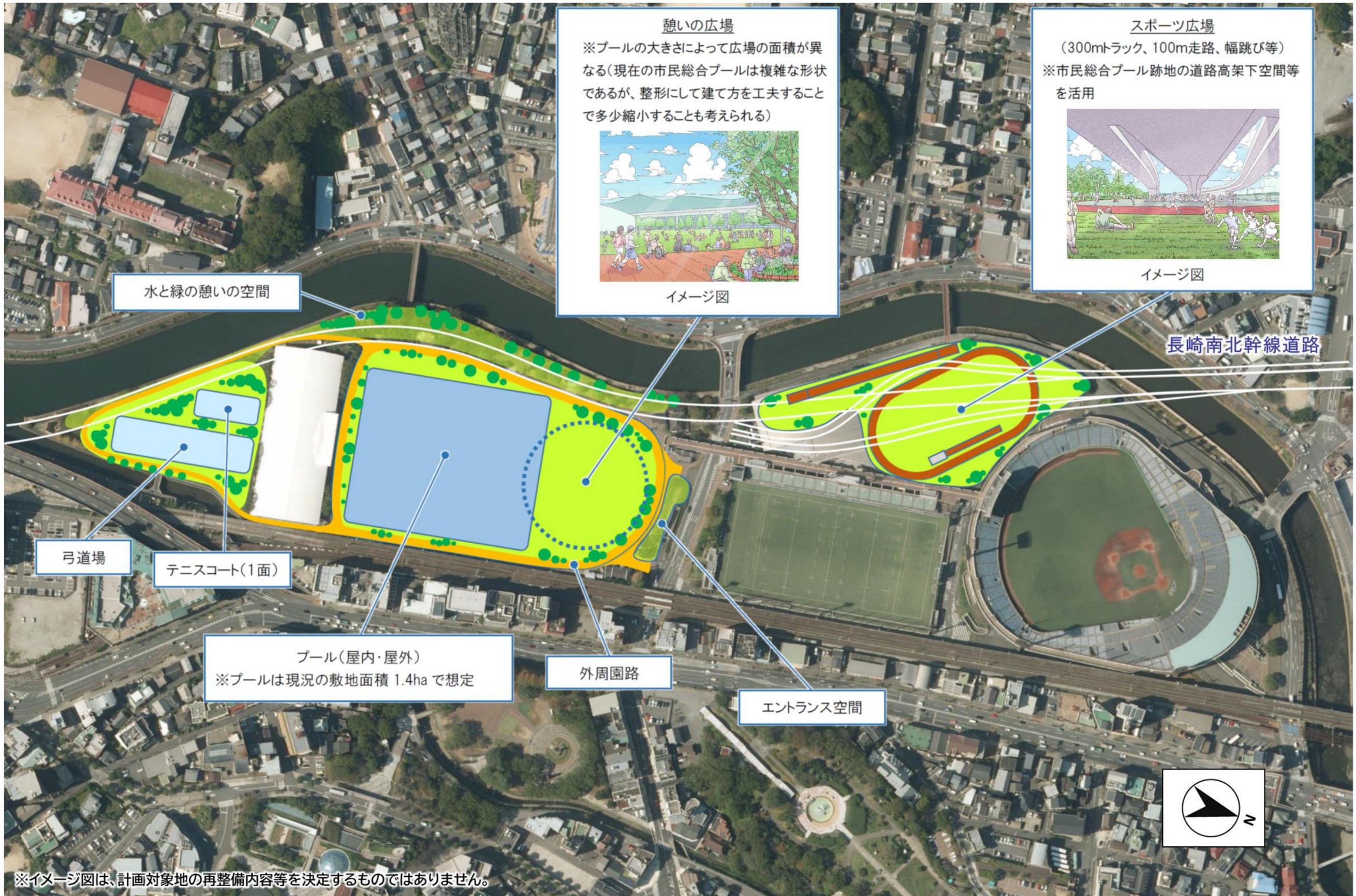
300mトラックの陸上練習場を長崎南北幹線道路の高架下[※]に再配置することで、平和公園西地区に集積する案

施設 (配置先)		市民総合プール (陸上競技場)					陸上練習場 (市民総合プール跡)					
イメージ図							同左					
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.4ha > 1.4ha 					<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 300mトラック (4レーン)、100m走路、幅跳び等 ※橋脚との調整が必要 					
個別施設の 評価	大型公共交通、 バス等の アクセス 性	公共交通機関のアクセス	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間あたり)	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間あたり)
		①電停	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本	①平和公園	約150m	1か所	0か所	12~17本
		②バス停	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本	②平和公園	約220m	0か所	1か所	23~41本
		③JR	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3~7本	③長崎駅	約2,750m	7か所	0か所	3~7本
④JR	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2~6本	④浦上駅	約1,200m	2か所	0か所	2~6本		
	駐車場※1	現状の松山町駐車場を継続して利用することが可能					-					
	交通混雑※1	<ul style="list-style-type: none"> 国道206号の交通量 (R3松山町) : 47,880台/日 スポーツ施設の再配置に伴う交通負荷は大きく変わらない 					-					
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用: 約2億円					陸上練習場 (300mトラック等) の整備費用: 約2億円					
	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 ただし、現市民総合プールでは地下水を利用しており、現ポンプ設備から送水可能 					-					
再配置 パターン 全体の 評価	場所性	平和公園 (西地区) の基本方針※2	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園 (西地区) の基本方針「平和を発信するスポーツ環境の創出」と整合が図られている 県内外から選手が訪れる市民総合プールが平和を発信するスポーツ施設の拠点となることが期待される 					同左				
	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 平和公園 (西地区) は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 大規模スポーツ施設の集積により、スポーツの大会やイベントの開催等を通して、地域経済の活性化やスポーツへの関心の向上が期待される 					同左				
	連携性	周辺施設との相乗効果	スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる					同左				
安心・安全性	災害時における防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 大規模建築物と広場空間が隣接することで、災害時の防災拠点として活用できる可能性がある 					同左					
その他		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多くを占める外周囲路や多目的に利用可能な憩いの広場は確保できる 平和公園の開放的な空間が縮小する 工事の際に遺骨が発見された際は、必要な措置が必要となる 					<ul style="list-style-type: none"> トラック周辺やインフィールドに橋脚等が建ち見通しが悪くなるが、主に陸上練習での専用的な利用が可能になる 					

※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象

※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象

パターン3-2 (市民総合プール・陸上練習場のイメージ図)



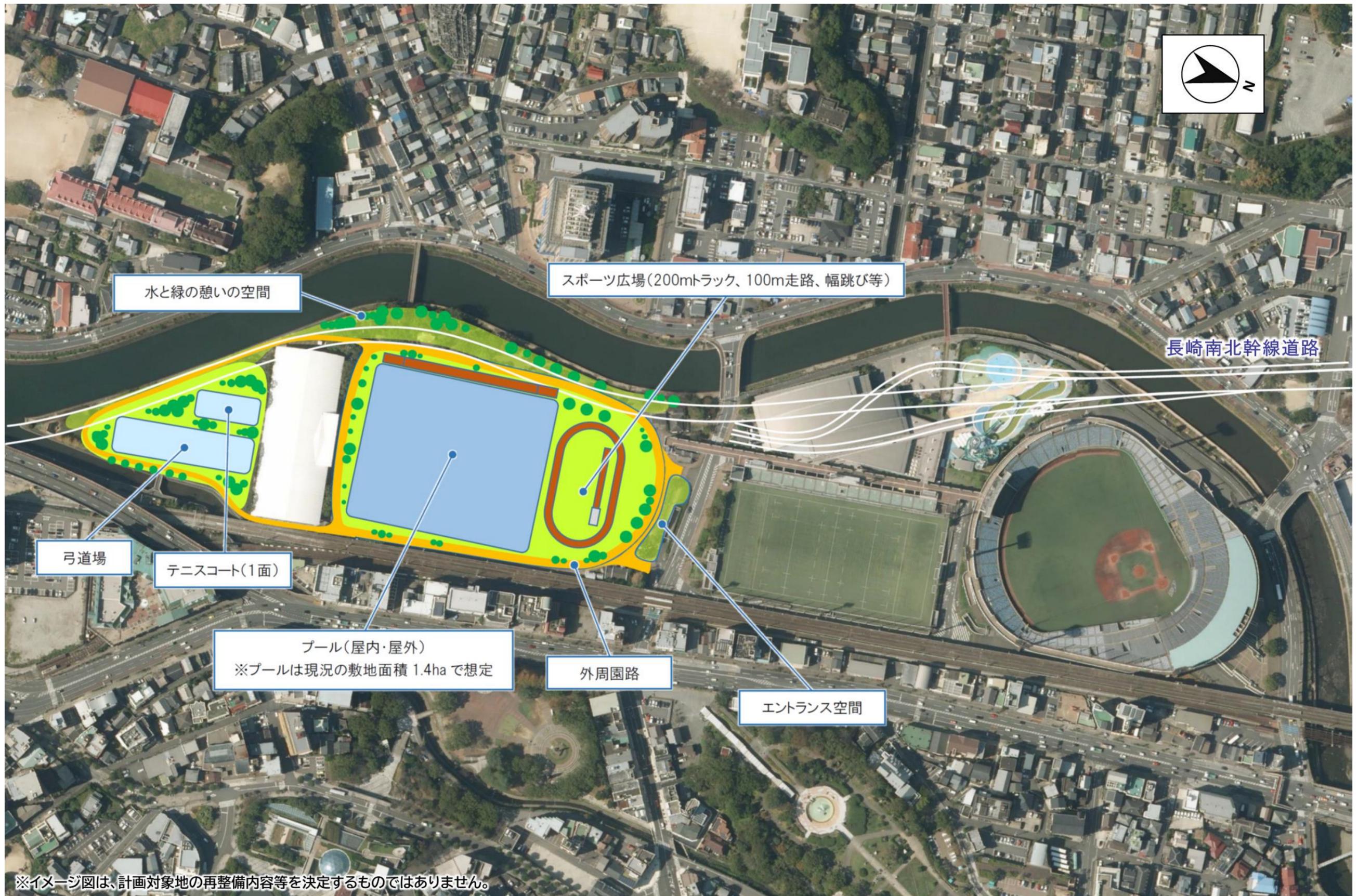
パターン3-3 (平和公園内にプールと陸上練習場の両方を再配置する案)

200mトラックの陸上練習場を市民総合プールの隣に再配置することで、平和公園西地区に集積する案

施設 (配置先)		市民総合プール (陸上競技場)	陸上練習場 (陸上競技場)																																																		
イメージ図		<p>外周園路 200mトラック、100m走路、幅跳び等 プール(屋内・屋外)</p>	同左																																																		
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.4ha > 1.4ha 	<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 200mトラック (4レーン)、100m走路、幅跳び等、外周園路 																																																		
個別施設の評価	公共交通機関のアクセス ①電停 ②バス停 ③JR ④JR 駐車場※1 交通混雑※1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>停留所・駅名</th> <th>起点からの距離</th> <th>道路横断</th> <th>踏切</th> <th>便数 (1時間当たり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①平和公園</td> <td>約80m</td> <td>0か所</td> <td>0か所</td> <td>12~17本</td> </tr> <tr> <td>②平和公園</td> <td>約150m</td> <td>1か所</td> <td>1か所</td> <td>23~41本</td> </tr> <tr> <td>③長崎駅</td> <td>約2,400m</td> <td>6か所</td> <td>0か所</td> <td>3~7本</td> </tr> <tr> <td>④浦上駅</td> <td>約850m</td> <td>1か所</td> <td>0か所</td> <td>2~6本</td> </tr> </tbody> </table>	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間当たり)	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3~7本	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2~6本	<table border="1"> <thead> <tr> <th>停留所・駅名</th> <th>起点からの距離</th> <th>道路横断</th> <th>踏切</th> <th>便数 (1時間当たり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①平和公園</td> <td>約80m</td> <td>0か所</td> <td>0か所</td> <td>12~17本</td> </tr> <tr> <td>②平和公園</td> <td>約150m</td> <td>1か所</td> <td>1か所</td> <td>23~41本</td> </tr> <tr> <td>③長崎駅</td> <td>約2,550m</td> <td>6か所</td> <td>0か所</td> <td>3~7本</td> </tr> <tr> <td>④浦上駅</td> <td>約1,000m</td> <td>1か所</td> <td>0か所</td> <td>2~6本</td> </tr> </tbody> </table>	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間当たり)	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本	③長崎駅	約2,550m	6か所	0か所	3~7本	④浦上駅	約1,000m	1か所	0か所	2~6本
		停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間当たり)																																															
		①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本																																															
		②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本																																															
③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3~7本																																																	
④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2~6本																																																	
停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数 (1時間当たり)																																																	
①平和公園	約80m	0か所	0か所	12~17本																																																	
②平和公園	約150m	1か所	1か所	23~41本																																																	
③長崎駅	約2,550m	6か所	0か所	3~7本																																																	
④浦上駅	約1,000m	1か所	0か所	2~6本																																																	
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用：約2億円	陸上練習場 (200mトラック等) の整備費用：約1.6億円																																																		
経済性	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 ただし、現市民総合プールでは地下水を利用しており、現ポンプ設備から送水可能 	-																																																		
再配置パターン全体の評価	場所性	平和公園 (西地区) の基本方針※2	同左																																																		
	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 平和公園 (西地区) は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 大規模スポーツ施設の集積により、スポーツの大会やイベントの開催等を通して、地域経済の活性化やスポーツへの関心の向上が期待される 	同左																																																	
	連携性	周辺施設との相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる 	同左																																																	
	安心・安全性	災害時における防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 大規模建築物と広場空間が隣接することで、災害時の防災拠点として活用できる可能性がある 	同左																																																	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多くを占める外周園路は確保できる 平和公園の開放的な空間が縮小する 工事の際に遺骨が発見された際は、必要な措置が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 200mトラックの内側に建物や橋脚がないため見通しは良い トラックもインフィールドも狭くなる 																																																		

※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象
 ※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象

パターン3-3 (市民総合プール・陸上練習場のイメージ図)



パターン4（市民総合プールを陸上競技場に配置する案）

市民総合プールを平和公園内に再配置し、400mトラックの陸上練習場を中部下水処理場に再配置する案

施設（配置先）		市民総合プール（陸上競技場）					陸上練習場（中部下水処理場）					
イメージ図												
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.4ha > 1.4ha 					<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 400mトラック（4レーン）、100m走路、幅跳び等 					
個別施設の評価	大型公共交通等のアクセス、自動車、バス等のアクセス	公共交通機関のアクセス	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）
		①電停	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12～17本	①銭座町	約230m	3か所	0か所	12～17本
		②バス停	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23～41本	②銭座町	約220m	3か所	0か所	32～71本
		③JR ④JR	③長崎駅 ④浦上駅	約2,400m 約850m	6か所 1か所	0か所 0か所	3～7本 2～6本	③長崎駅 ④浦上駅	約1,100m 約550m	7か所 4か所	0か所 0か所	3～7本 2～6本
駐車場※1	現状の松山町駐車場を継続して利用することが可能					-						
交通混雑※1	<ul style="list-style-type: none"> 国道206号の交通量（R3松山町）：47,880台/日 スポーツ施設の再配置に伴う交通負荷は大きく変わらない 					-						
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用：約2億円					陸上練習場（400mトラック等）の整備費用：約2.2億円					
	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 ただし、現市民総合プールでは地下水を利用しており、現ポンプ設備から送水可能 					-					
場所性	平和公園（西地区）の基本方針※2	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園（西地区）の基本方針「平和を発信するスポーツ環境の創出」と整合が図られている 県内外から選手が訪れる市民総合プールが平和を発信するスポーツ施設の拠点となることが期待される 					-					
再配置パターン全体の評価	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 平和公園（西地区）は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 					<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 中部下水処理場は「地域経済の活性化を図るため、跡地活用を検討する」と位置付けられており、周辺施設と連携したイベントの開催等により、地域経済の活性化に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 【その他】 都心部の貴重な土地であるため、都心部の課題解決に向けた土地利用（大規模災害時や臨時的な大型イベント時に円滑な都市活動を維持するためのオープンスペースなど）が望まれている 				
	連携性	周辺施設との相乗効果	スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる					<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設や長崎スタジアムシティ、文化施設などが集積するエリアであるため、広場として整備する場合は、周辺施設と連携したイベントの開催等が可能となり、賑わいの創出や波及が期待される 				
	安心・安全性	災害時における防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 大規模建築物と広場空間が隣接することで、災害時の防災拠点としての活用できる可能性がある 					<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域及び津波災害警戒区域に含まれている 防災広場として整備する場合は、都心部の防災性の向上が図られる 				
その他		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多くを占める外周囲路や多目的に利用可能な憩いの広場は確保できる 平和公園の開放的な空間が縮小する 工事の際に遺骨が発見された際は、必要な措置が必要となる 					<ul style="list-style-type: none"> 400mトラックが配置され、十分な練習環境が整う 陸上の練習環境と多目的な広場空間の共存により、防災機能と賑わいを両立できる 誰もが安全に利用できるようにするためにルール作りなどの検討が必要 					

※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象
 ※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象

パターン4 (陸上練習場のイメージ図)



パターン5（長崎市総合運動公園と機能統合する案）

市民総合プールを平和公園内に再配置し、陸上練習場は長崎市総合運動公園に機能統合する案

施設（配置先）		市民総合プール（陸上競技場）					陸上練習場（機能統合（柿泊））					
イメージ図												
機能性		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積 約2.4ha > 1.4ha 					<ul style="list-style-type: none"> 配置規模 400mトラック等 					
個別施設の評価	大型公共交通、自動車等のアクセス性	公共交通機関のアクセス	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）	停留所・駅名	起点からの距離	道路横断	踏切	便数（1時間当たり）
		①電停	①平和公園	約80m	0か所	0か所	12～17本	①徒歩圏に無し	-	-	-	-
		②バス停	②平和公園	約150m	1か所	1か所	23～41本	②長崎市運動公園前	約130m	0か所	0か所	0～4本
		③JR ④JR	③長崎駅	約2,400m	6か所	0か所	3～7本	③徒歩圏に無し	-	-	-	-
	④浦上駅	約850m	1か所	0か所	2～6本	④徒歩圏に無し	-	-	-	-		
	駐車場※1	現状の松山町駐車場を継続して利用することが可能					-					
	交通混雑※1	<ul style="list-style-type: none"> 国道206号の交通量（R3松山町）：47,880台/日 スポーツ施設の再配置に伴う交通負荷は大きく変わらない 					-					
経済性	整備費用	新市民総合プールの基礎費用：約2億円					※バスの増便や利用時間の延長に伴う費用の発生の可能性					
	維持管理費用※1	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の利用にあたっては、調査が必要 地下水が利用できない場合には、水道代が発生 ただし、現市民総合プールでは地下水を利用しており、現ポンプ設備から送水可能 					-					
再配置パターン全体の評価	場所性	平和公園（西地区）の基本方針※2	<ul style="list-style-type: none"> 平和公園（西地区）の基本方針「平和を発信するスポーツ環境の創出」と整合が図られている 県内外から選手が訪れる市民総合プールが平和を発信するスポーツ施設の拠点となることが期待される 					-				
	将来性	まちづくりとの連携や賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 【都市計画マスタープラン】 平和公園（西地区）は「交流施設の確保」と位置付けられており、その方針に貢献できる 【都心まちづくり構想】 川辺のエリアの整備方針「(a) 全国からの集客エリアとなる施設整備と交流の創出・波及」や「(b) すべての市民が娯楽と余暇を楽しめる環境整備」に貢献できる 					-				
	連携性	周辺施設との相乗効果	スポーツ施設が集積することで相乗効果が期待できる					-				
安心・安全性	災害時における防災・減災機能	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に含まれている 大規模建築物と広場空間が隣接することで、災害時の防災拠点としての活用できる可能性がある 					洪水浸水、津波災害は想定されていない					
その他		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多くを占める外周囲路や多目的に利用可能な憩いの広場は確保できる 平和公園の開放的な空間が縮小する 工事の際に遺骨が発見された際は、必要な措置が必要となる 					<ul style="list-style-type: none"> バスの増便による費用負担など、解決すべき課題が多い 松山陸上競技場と比べた場合、移動にかかる支出や時間などの負担が生じる 					

※1) 市民総合プールの場合のみ評価対象
 ※2) 配置先が平和公園の場合のみ評価対象